

東中野駅周辺まちづくり基本方針（たたき台）について

1. まちづくり検討の背景と目的

東中野駅周辺は、西口側は駅前広場などが整備されて駅のバリアフリー化がされているが、東口側は駅及びその周辺もバリアフリー化されておらず、かねてより地域住民等から要望が多く寄せられてきた。駅舎等のバリアフリー化については、周辺の土地を活用する必要があるため、駅周辺のまちづくりの中で実現する必要がある。

また、東中野駅東口周辺においては、「駅とまちが一体的な空間として形成されていない」、「駅前にふさわしい土地利用が図られていない」などの課題もある。

こうしたことから、東中野駅周辺において、地域課題の解決や駅舎等のバリアフリー化を含めたまちの将来像を示すとともに、まちの魅力を高める具体的な取り組みを検討し、東中野駅周辺まちづくり基本方針を策定する。

2. これまでの経緯

「東中野駅周辺まちづくり基本方針」の検討にあたっては、適宜、地域への情報提供、意見交換等を行いながら進めている。

令和4（2022）年11月	まちづくりに関する意見交換
令和5（2023）年1～2月	まちづくりに関するアンケート調査
令和5（2023）年6月	まちづくりに関する意見交換会及びアンケート調査の報告
令和6（2024）年3月	まちづくりに関する意見交換会の実施結果及び東中野駅周辺まちづくり基本方針骨子の報告

3. 検討中のまちづくりの方向性

「東中野駅周辺まちづくり基本方針（たたき台）」について
別紙のとおり

4. 今後の予定

令和7（2025）年6月	東中野駅周辺まちづくり基本方針（たたき台）の報告 まちづくりオープンハウス開催及びアンケートの実施 （7月頃）
令和7（2025）年9月以降	東中野駅周辺まちづくり基本方針（素案）作成 素案説明会の開催 東中野駅周辺まちづくり基本方針（案）作成 東中野駅周辺まちづくり基本方針策定

1. 策定背景・目的

東中野駅周辺は、西口側は駅前広場などが整備されて駅のバリアフリー化がされていますが、東口側は駅及びその周辺もバリアフリー化されておらず、かねてより地域住民等からバリアフリー化の要望が多く寄せられてきました。駅舎等のバリアフリー化については、周辺の土地を活用する必要があるため、駅周辺のまちづくりの中で実現する必要があります。

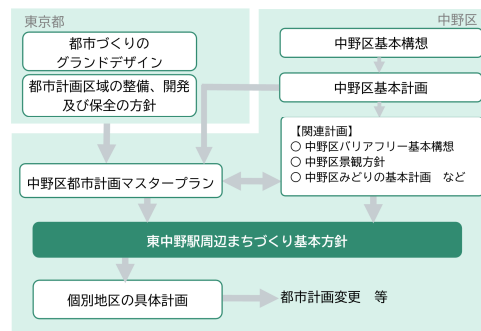
また、東中野駅東口周辺においては、「駅とまちが一体的な空間として形成されていない」、「駅前にふさわしい土地利用が図られていない」などの課題もあります。

東中野駅周辺まちづくり基本方針（以下「本方針」といいます。）は、駅舎等のバリアフリー化を含め東中野駅周辺地域の課題を解決し、まちの魅力を高めていくためのまちづくりの基本的な考え方を整理します。

本方針は、東中野駅周辺地域のまちの将来像について示し、その実現に向けたまちづくりの方針についてまとめます。

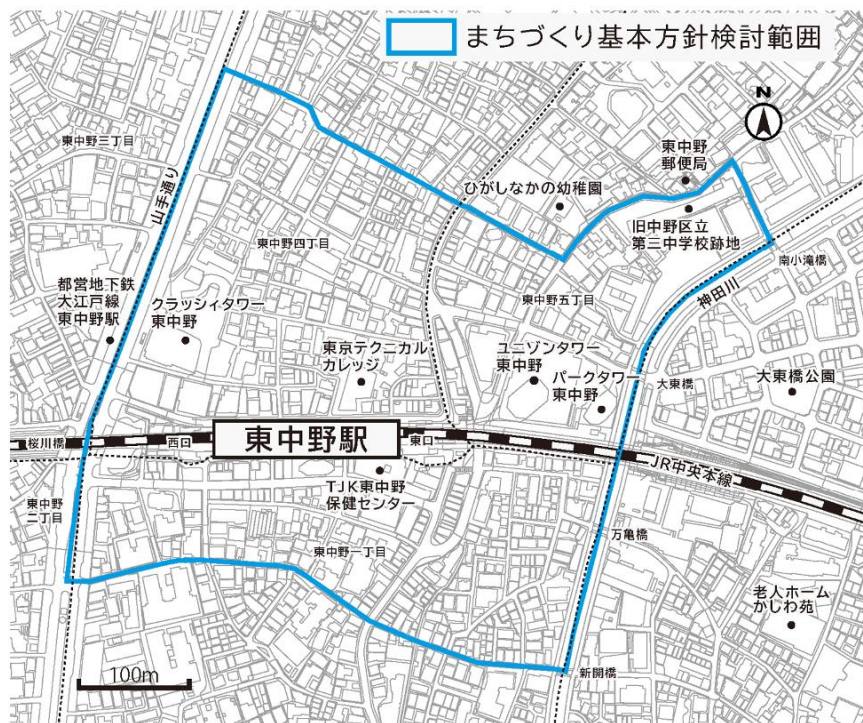
2. 本方針の位置づけ

本方針は、東京都が策定した計画も含めて上位計画や関連計画等を前提とし、東中野駅周辺地域のまちの将来像を示すものとします。策定後は、必要に応じて個別地区の具体計画へつなげていきます。



3. 検討対象範囲

本方針の対象地域は中野区東中野一丁目、四丁目、五丁目の地域内で、検討範囲は東中野駅から100～200m程度の範囲で、道路等で区切れる地形を基本とし、旧中野区立第三中学校跡地も含めた範囲とします。



4. まちづくりの方針

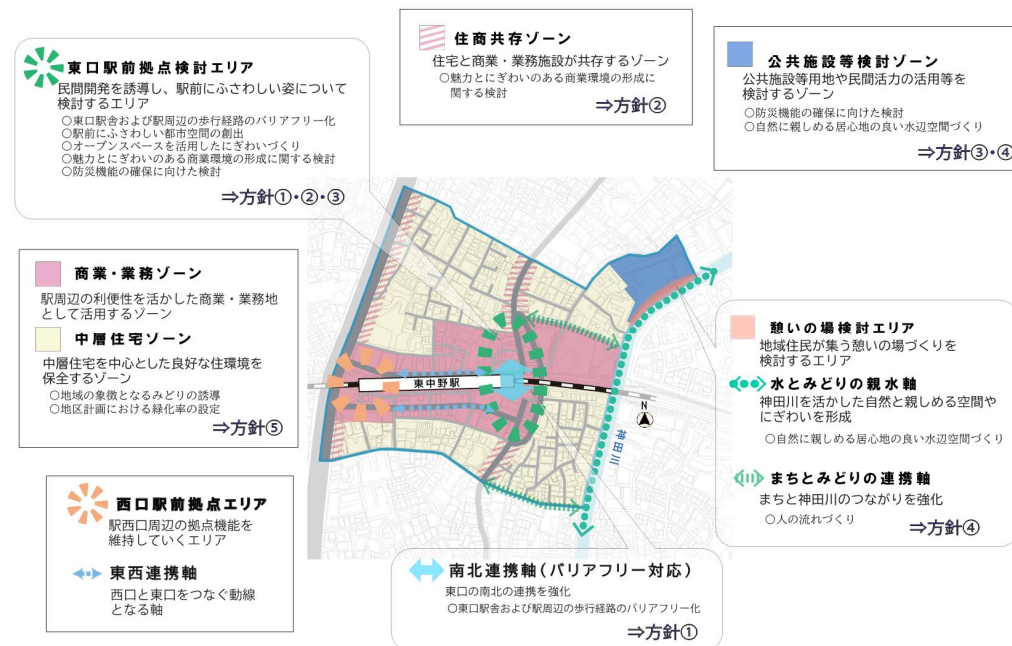
（１）目指すべきまちの将来像

まちの現状や地域住民等からの意見を踏まえ、より魅力あるまちにしていくために、次のような目指すべきまちの将来像を掲げます。

駅とまちがバリアフリー化され、
東中野らしいにぎわいと
良好な住環境が共存するまち

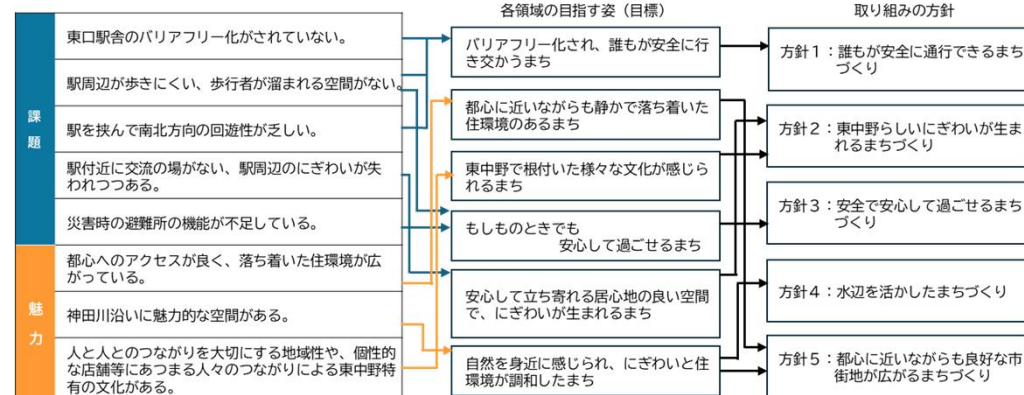
（２）まちづくり方針図

目指すべきまちの将来像を踏まえ、次のとおりまちづくりの方針図を示します。



（３）目指すべきまちの将来像の実現のための方針

まちの課題と魅力を踏まえ、次のような目指すべきまちの将来像を実現するための方針を掲げます。



(4) 各方針と実現に向けた取り組み

目指すべきまちの姿の実現に向けて、現状の課題解決に加え、まちの魅力をより向上させるための方針と具体的な取り組み内容を示します。

方針①

誰もが安全に通行できるまちづくり

○東口駅舎および駅周辺の歩行経路のバリアフリー化



東口駅舎のバリアフリー化について、鉄道事業者を始めとした関係者と実現に向けた方策について検討を進めていきます。

また、駅前広場空間の整備と併せて、東中野駅東口周辺の地形上の段差についてもバリアフリー化を図ります。

さらに、駅を挟んだ南北のバリアフリー経路の確保に向け、民間開発による一体的な整備も視野に入れながら、関係者と検討を進めます。

← 図 バリアフリー経路（想定）

方針②

東中野らしいにぎわいが生まれるまちづくり

○駅前にふさわしい都市空間の創出

東口駅前拠点検討エリアでは土地の高度利用化を図り、民間の都市開発等を誘導します。その際に、人々が集まることができるオープンスペースやゆとりある歩道状空地の確保、低層部への商業・業務機能の導入など、駅前にふさわしいウォーカブルな都市空間の創出に向けた検討を進めます。

○オープンスペースを活用したにぎわいづくり

民間開発等により創出されるオープンスペースについては、東中野の文化の一つであるお祭りなどの地域活動や、日常的なにぎわいづくりなどに取り組むことを検討します。



駅前空間をイベントに活用している例→

○魅力とにぎわいのある商業環境の形成に関する検討

主に駅東側道路沿いで店舗などが減少しており、にぎわいのある商業環境が失われつつあります。魅力ある街並みの形成について、商店街を中心とした地域の方々と検討します。

方針③

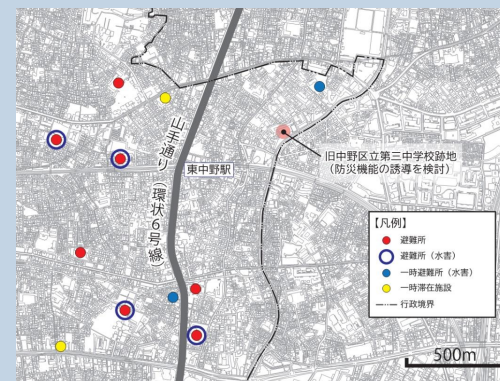
安全で安心して過ごせるまちづくり

○防災機能の確保に向けた検討

旧中野区立第三中学校が避難所であった経緯から、跡地活用の検討の際には防災機能の誘導について検討していきます。

また、東口駅前拠点検討エリアで民間開発が行われる際は、災害発生時に帰宅困難者を受け入れる、一時滞在施設の誘導を検討します。

図 防災機能の誘導場所（想定）→



方針④

水辺を活かしたまちづくり

○自然に親しめる居心地の良い水辺空間づくり

神田川沿いは東中野地域の中でも自然豊かな場所となっており、地域住民等にとっても憩いの場となっています。春には桜が咲き、区内でも有数のフोटスポットとして知られていますが、今後はその魅力をさらに高めるために、区有施設の敷地の一部を活用して、河川沿いに公園や休憩場所などの桜に親しめる場づくりを検討します。

○人の流れづくり

東中野駅東口周辺から神田川方面に人の流れをつくり、にぎわいを広げていくために、景観やまちのコンセプトに配慮した誘導サイン（案内表示）を民間開発時に創出されたオープンスペース等への設置を検討します。



図 旧中野区立第三中学校周辺地図

方針⑤

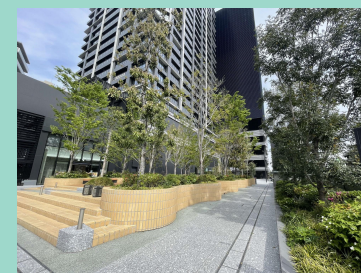
都心に近いながらも良好な市街地が広がるまちづくり

○質の高いみどりの誘導

東口駅前拠点検討エリアで一定規模以上の民間都市開発等が行われる際には、量を増やすだけでなく質の高い緑化による、みどり豊かで潤いのある快適な都市環境の創出を誘導します。

○地区計画における緑化率の設定

中野区では、環境共生型のまちづくりとして、地区計画や任意のまちづくり計画に脱炭素の推進に資する方針等を位置付けることを目指しています。今後地区計画が策定される場合は、地域の実情や意向を踏まえた上で緑化率等の基準を設け、まちなかのみどりを増やす取り組みを進めていきます。



民間都市開発により生み出されたみどり
【中野二丁目】